

## 「沖縄の未来のために」

沖縄県立首里高等学校 3年生 きんじょう あいり 金城 愛里

青い空・青い海、古き良き伝統文化が色濃く残る沖縄。私が生まれ育ち、また愛してやまないこの島は、暖かい気候に恵まれ、世界遺産をはじめとする観光地が多く、世界からも注目を浴びています。

年々、沖縄を訪れる観光客が増えていくなか、昨年度は観光客数が七百万人を突破し、過去最高を更新しました。特に、台湾・韓国・中国など沖縄近隣の国からの外国人観光客が増加しています。

私は、その理由の一つとして、沖縄への直行便やLCC就航により、以前より早く、安く移動できるようになったからだと考えます。人々が気軽に旅行に出かけることができ、沖縄の文化や歴史を学び理解することで「また行きたい。」といったリピーターが増えてきているのだと思います。

昨年、私は沖縄県の相互交流事業に参加し、台湾に行きました。海外に行くことが初めてだったので、不安もありましたが、どこへ行っても日本語を話せるスタッフがいて親切に接してくれたことを覚えています。故宮博物館や九份などの観光地に行ったことで、日本とは異なる文化を学ぶことができ、テレビや雑誌などでは味わうことのできない雰囲気を経験することができました。

その時感じたことは、言葉が少しでも通じることで、安心して観光することができるということです。行くところどころに、日本語を達者に話すスタッフがいて、私はそのことに感心したので、店員になぜ日本語を話せるのかと尋ねてみました。すると、「私は入社した時に日本語を勉強しました。この店では、ひとりひとり担当している言語があります。」と話をしてくれました。

では、果たしてここ沖縄では、外国から来た観光客におもてなしができていくのでしょうか。沖縄の観光復興への課題は、自然保護をはじめとする環境問題や基地問題、交通や外国人観光客との言葉の壁など、多くの課題があります。特に、外国人観光客が沖縄に観光に来て一番困ったことは、言葉が通じないということです。沖縄のお店の店主や事業所の方も苦戦しており、双方とも困っているという現状があるようです。

私の叔母は、ハブ酒などの沖縄のお酒を販売している酒造所で働いていますが、外国人観光客にもお酒の魅力を知ってもらうために、基本的なフレーズは覚えていると聞きました。例えば、お酒を説明する言葉をあらかじめ何カ国語かメモをしていたり、「美味しいですか？」といった問いかけや簡単な挨拶な

どを覚えておいたりするのです。

私が考える観光客へのおもてなしは、相手の言葉を少しでも勉強し、もっとスムーズにコミュニケーションがとれるようにすることだと考えます。「外国語」と聞くだけで難しそうに感じられますが、その言葉を全て話せるようにするという考え方ではなく、その場その場に必要単語やフレーズを覚えたり、あらかじめメモを取っておくことで少しでも言葉の壁はなくなるのではないのでしょうか。また、飲食店に置かれているメニューに料理の写真を載せることで言葉では説明できなくても、理解してもらえますと思います。

また、沖縄の魅力といえば、世界遺産や伝統芸能・工芸が数多くあることです。首里城をはじめとする多くの遺跡、琉球舞踊や紅型・織物は、どれも沖縄の誇れる魅力です。それらをもっと県外へ、国外へと広げるために、私達は何ができるでしょうか。

私は、まず沖縄の良さを伝えるためには、県民一人ひとりが知識を持つことが大切だと考えます。私の通っている首里高校では、二年生になると、首里城をはじめとし、学校の近くにある遺跡を巡る機会があります。その時学んだことは、目立たないところに戦争の激しさや悲惨さを物語る戦争遺跡があるということです。それらは、観光ルートにも入っておらず、案内板もないため、ほとんどの観光客が通り過ぎるような所でした。首里城というと守礼門や美しい正殿をイメージしますが、そればかりではないことに気づかされました。

平和や戦争について知る目的で沖縄を訪れる人は、多いとは言えないでしょう。でも観光地を通して、戦争について考えるきっかけ作りができれば、これからの沖縄、日本に銃声の音が響くことはないのではないのでしょうか。また、今年には戦後七〇年という節目を迎える年であり、悲惨な戦争に巻き込まれた島に住む者として、世界へ平和の尊さを発信し続けなければなりません。

観光立県と呼ばれる沖縄。観光も文化交流も平和を育む重要な要素だと考えます。これからもっと沖縄を発展させるためには、県民一人ひとりの力が必要です。沖縄に誇りを持っているうちなーんちゅ、明るい未来と発展に向かって、いちゅんどー。